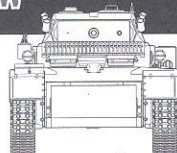


ルクス増加装甲型 (第4装甲偵察大隊仕様)



tasca

35-006

組み立てを始める前にお読みください。

この説明書は35-006・ルクス増加装甲型の追加説明書です。組み立てに関しては、別紙の35-001・ルクス(後期型)の説明書とあわせてご覧いただく必要があります。あらかじめそれぞれの説明に目を通し、全体の流れを把握してから組み立てに入ってください。

■ ルクスについて

■ 開発経過

第二次大戦中期になると主力戦車のサイズは次第に大型化し、軽戦車は対戦車戦闘とは別の、偵察や指揮車輛としての任務に転用されるようになりました。とりわけドイツ軍は旧式化した軽戦車の代わりとなる偵察用の新型軽戦車の開発に熱心で、幾つものプロジェクトを進めていましたが制式採用に至る戦車はなかなか登場しませんでした。その中でようやく量産化に漕ぎつけたのがII号戦車L型ルクス(山猫)でした。

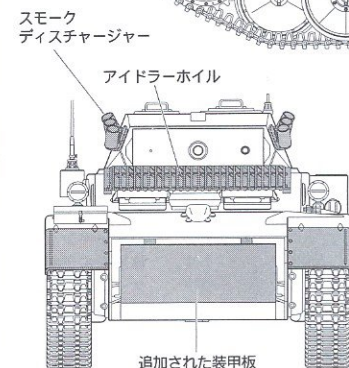
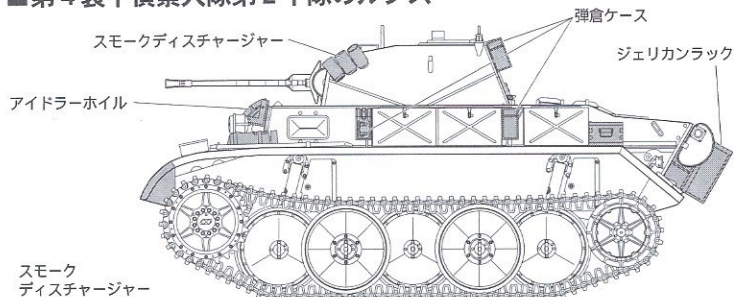
開発命令が出されたのは開戦前の1939年4月と古く、パンターの製造メーカーとして有名なMAN社がシャーシを、ダイムラーベンツ社が戦闘室と砲塔を担当。ようやく試作車が完成したのは1942年4月でした。これが偵察用軽戦車の本命としてII号戦車L型ルクスSd.Kfz.123(特殊車両番号123号)の形式名で制式採用されたのです。

満を持して同年8月から量産が開始されたルクスは、ヒトラーから対ソ連向けの大攻勢であるツィタデル作戦に備え1943年5月までに131両を完成させるよう指示されましたが、その生産は遅々として進みませんでした。その後生産計画は見直され、ルクスの総生産数は800両とされ、最初の100両が2cm砲を装備して完成した後、残りの700両は5cm KwK39/1を搭載するように変更されました。しかしこの5cm砲装備型も1943年の2月にはキャンセルされ、ルクスの生産は最初の100両をもって終了することが決定されたのです。最後の100両目が完成したのは1年以上後の1944年1月のことでした。

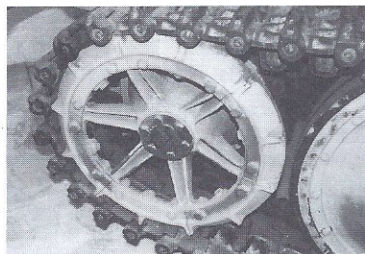
■ 車体構造

ルクスは大戦後半のドイツ戦車の特徴ともいえる大直径の複合転輪とトーションバー式サスペンションを採用し、車体後端部を上方に切り上げたスタイルがどことなくパンターを彷彿とさせます。偵察用という任務のために機動性を重視した足回りは非常に贅沢な構成で、小柄な車輛の割には幅

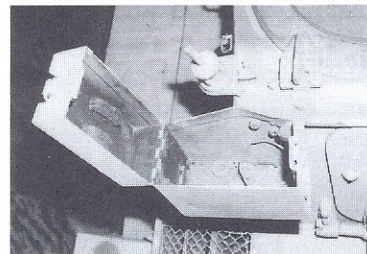
■ 第4装甲偵察大隊第2中隊のルクス



このキットは、第4装甲偵察大隊第2中隊が独自に防御力を強化したタイプをモデル化しています。現在残された写真で確認できるほとんどの車輛は砲塔後部のエスケープハッチが大型化された後期型をベースとしており、車体の前面に厚さ10mm程度の装甲板を取り付け、戦闘室前面にアイドラーホイールの外周部品をシャフトで串刺しにしたブロックを取り付けて、防御力の強化を図っていました。車体の後部にはジェリカンラックを増設し、排気管の下側には薄板の保護板が取り付けられていました。この改修は基本的に部隊のほとんど全ての車輛に施されていたようです。また多くの車輛が砲塔側面にスモークディスチャージャーを装備していました。



アイドラーホイール



弾倉ケース

広の履帯(キャタピラ)を採用し、前後のサスペンションには大型のダンパーとショックアブソーバーを備え、60km/hという高速走行が可能でした。また目的は不明ですがアイドラーホイールの外周部は6つのブロックに分割され、鋼製とゴム製のブロックを選択して装着できるようになっていました。しかし機動性を優先したために装甲厚が全体的に薄く、前面が30mm、側面と後面が20mm、上面が10mmとなっており、全備重量は13トンでした。この装甲の脆弱さを

補うため、東部戦線の第4装甲偵察大隊第2中隊では独自に装甲防御力を強化した車輛を装備していました。本キットは、この装甲防御力を強化したタイプをモデル化したものです。

エンジンデッキは中央に大型のアクセスハッチを持ち、左右の吸気口から取り入れた空気を後部のグリルから排出する構造となっています。戦闘室上面の操縦手と無線用手用ハッチは砲塔との干渉を避けるため車内に向かって開く構造となっており、ハッ

チの裏側には頭部保護のためのパッドが取り付けられています。

武装は、55口径2cm KwK38機関砲と7.92mm MG34機銃が同軸装備されていました。主砲であるKwK38は、対空砲の2cm Flak38と共通のマガジン式弾倉を使用しており、砲塔や車体にこの弾倉ケースを取り付けている例が多く見られました。

砲塔上面は左に車長用ハッチ、右には一見ハッチのように見える砲手用の回転式ペリスコープが装備されていました。砲塔後部には大型のエスケープハッチが設けられていましたが、このハッチは1942年12月の生産車から乗員の脱出を容易にするため砲塔後部の幅いっぱいまで大型化されました。さらに生産中にも細部の若干の仕様変更が行われています。

■部隊配備

100輦という少ない生産数のためルクスが中隊単位のままだった数で配備されたのは、第9戦車師団第9装甲偵察大隊第1中隊、同第2中隊、そして第4戦車師団第4装甲偵察大隊第2中隊のみです。配備の記録は断片的で詳細が明らかでない部分も多いのですが、第9戦車師団第9装甲偵察大隊

図1 装甲偵察中隊の編成(1943年)

定数7輦の小隊4個からなり、これに中隊本部付きの1輦を加えた定数29輦となっています。第4装甲偵察大隊第2中隊もこれに準じていました。



1中隊は1944年に西部戦線に配備され、ノルマンディーで戦闘に参加しました。また同第2中隊は1943年に東部戦線で戦闘に参加しています。

装甲防御力を強化したタイプを装備した第4戦車師団第4装甲偵察大隊第2中隊は1943年から45年まで東部戦線で戦っており、43年の冬から44年にかけて集中的に撮影された写真が残されています。

同第2中隊の編成は1943年当時の装甲偵察中隊の標準である定数7輦の小隊4個から成り、中隊本部付き1輦を加えて定数

29輦となっています(図1参照)。各車輛の砲塔には2ケタのナンバーが記入されていましたが、最初のケタが小隊を、次のケタが何号車を表しています。残された写真では第3小隊の車輛が確認できませんが、図1に示したナンバーが記入されていたものと推測されます。

ルクスはその他、詳細は不明ながらヘルマンゲーリング降下猟兵装甲軍団、第17戦車師団、第4騎兵旅団に少数ながら配備されました。なお親衛隊に配備された記録はないようです。

塗装とマーキング

CAMOUFLAGE & MARKING

ドイツの戦車の基本色は大战の前半ではジャーマングレー(パンツァーグラーウ)の単一塗装が一般的で、1942年9月から生産されたルクスの初期型はロールアウト時、これに準じた塗装が施されていたと思われます。その後1943年2月18日付の通達により基本色がダークイエロー(ドゥンケルゲルブ)に変更され、その上にオリーブグリーン(オリーブグリューン)やレッドブラウン(ロートブラウン)によって迷彩が施されることになりました。これはそれ以前に生産された車輛にもさかのぼって適用されています。第4装甲偵察大隊第2中隊ではダークイエローの基本色の上にオリーブグリーンと思われる比較的細かい帯状迷彩が施されていたようです。冬季においては他のドイツ軍車輛と同様水性塗料による白色塗装が行われていました。2ケタの砲塔ナンバーは黒で描かれ、冬季迷彩を施す場合はこのナンバーを塗り残すのではなく白色塗装の上から重ね塗りしていたようです。

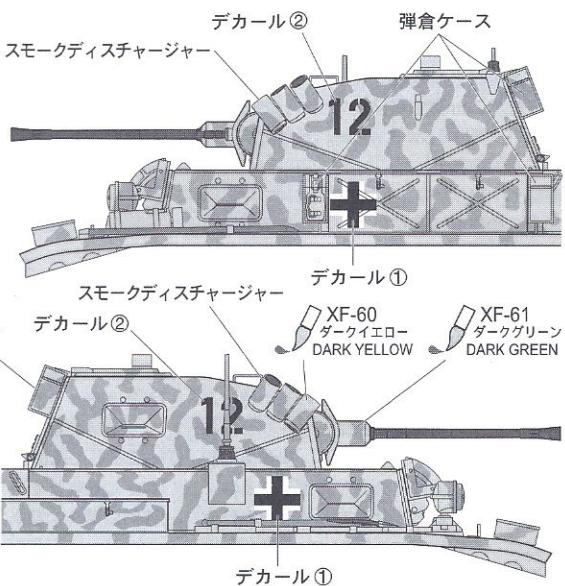
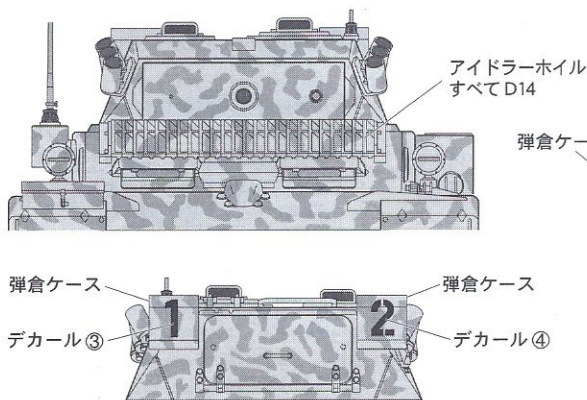
各車輛の仕様について 組み立てを始める前にお読みください。

このキットでは、第4装甲偵察大隊第2中隊所属のルクスの中から7輦のマーキングを選んで再現することができます。それぞれの車輛は、車体前面のアイドラーホイール、スモークディスチャージャーの有無、弾倉ケースの位置など細部の仕様異なります。どの車輛を作るかをあらかじめ決め、装備の状態を確かめてから製作に取りかかってください。



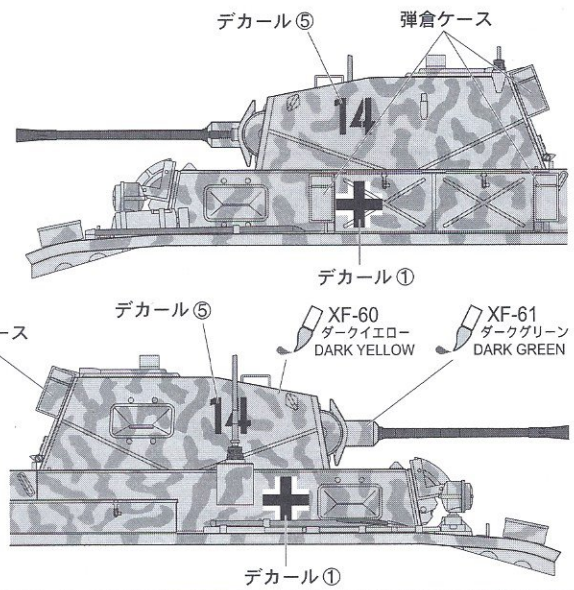
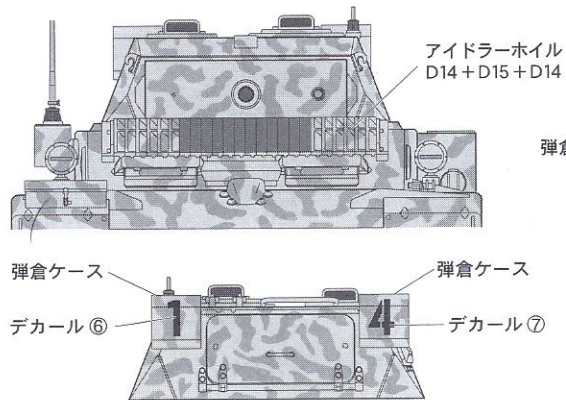
塗装例1 第4装甲偵察大隊 第2中隊 12号車 Tank No. 12, 2.Kp., Pz.Afkl. Abt.4.

夏季に撮影された写真が残されています。砲塔にはスモークディスチャージャーが装備され、戦闘室前面のアイドラーホイール部品はすべて鋼製のものを取り付けていました。



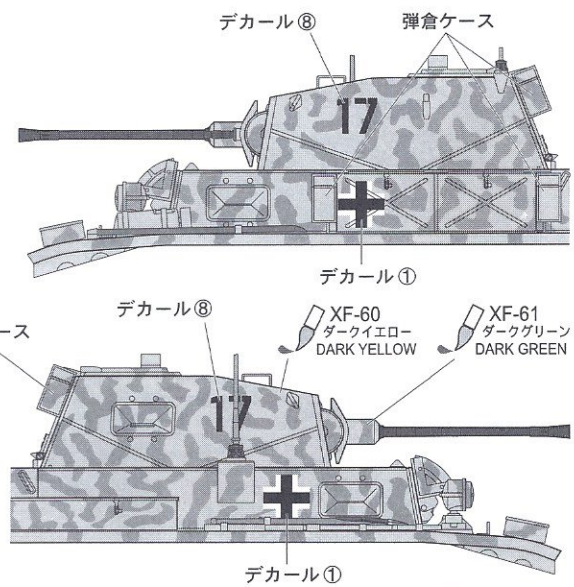
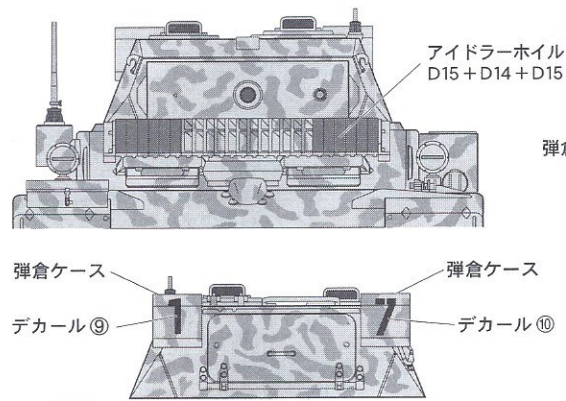
塗装例2 第4装甲偵察大隊 第2中隊 14号車
Tank No.14, 2.Kp., Pz.Afkl. Abt.4.

春季あるいは秋季に撮影された写真が残されています。スモークディスチャージャーは装備されていません。戦闘室前面のアイドラーホイール部品は中央部にゴム製、左右に鋼製の物を取り付けています。



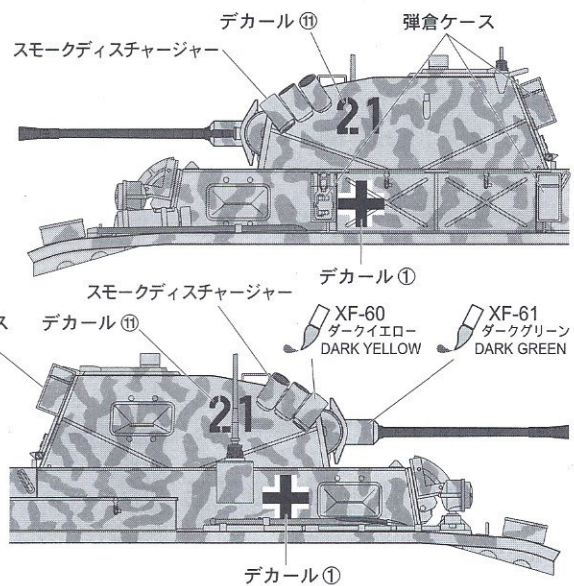
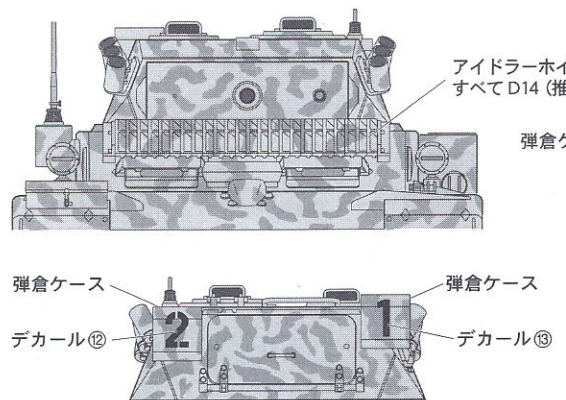
塗装例3 第4装甲偵察大隊 第2中隊 17号車
Tank No.17, 2.Kp., Pz.Afkl. Abt.4.

春季あるいは秋季に撮影された写真と、白色の冬季迷彩が施された写真が残されており、迷彩のパターンは他車に比べやや大柄です。スモークディスチャージャーは装備されていません。戦闘室前面のアイドラーホイール部品は中央部に鋼製、左右にゴム製の物を取り付けているようです。



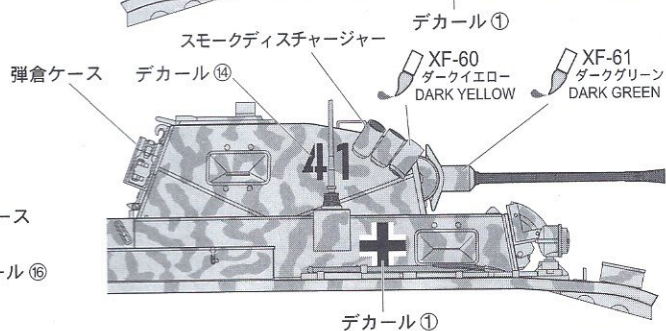
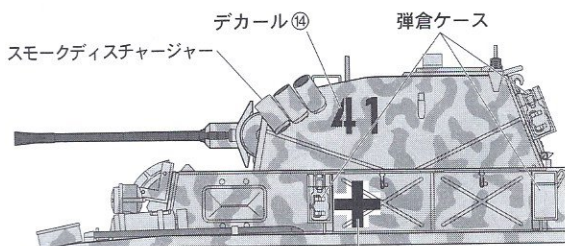
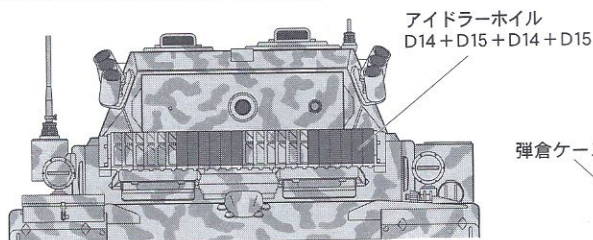
塗装例4 第4装甲偵察大隊 第2中隊 21号車
Tank No.21, 2.Kp., Pz.Afkl. Abt.4.

鉄道輸送中の写真ともう一枚写真が残されていますが、いずれも後方の写真のみで詳細は不明です。鉄道輸送時には迷彩は施されていないように見えます。また写真では不鮮明ながらスモークディスチャージャーが装備されているように見えます。



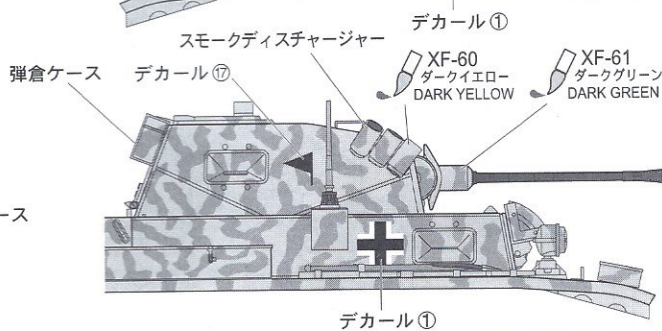
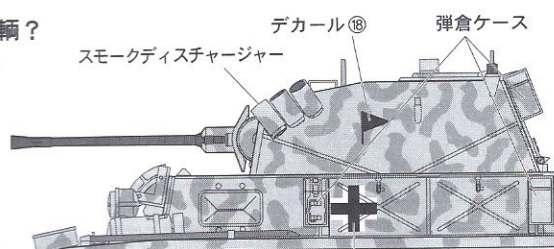
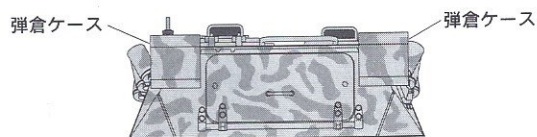
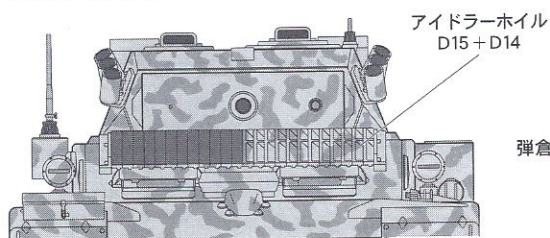
塗装例5 第4装甲偵察大隊 第2中隊 41号車 Tank No.41, 2.Kp., Pz.Afkl. Abt.4.

冬季迷彩の写真が残されており、車長は第4師団長ディートリヒ・フォン・ザウケン中将と言われています。スモークディスチャージャーが装備され、戦闘室前面のアイドラーホイール部品は鋼製のものと同製のもの1/4ずつ交互に取り付けていました。



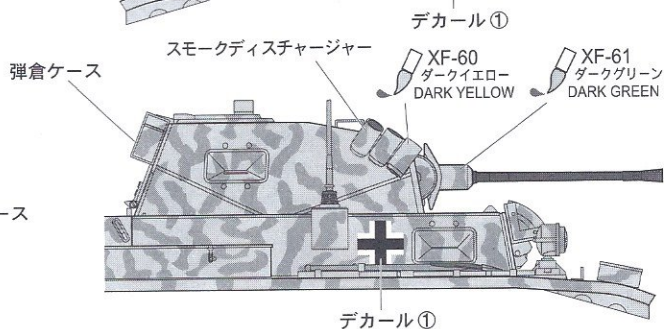
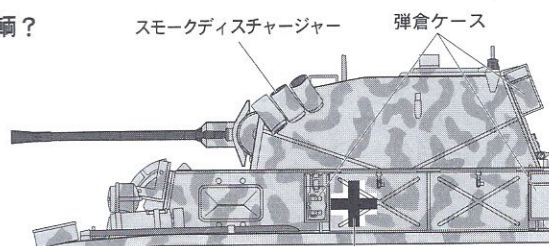
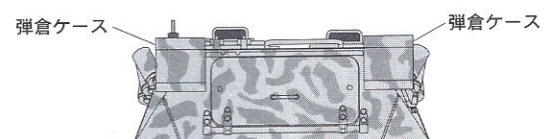
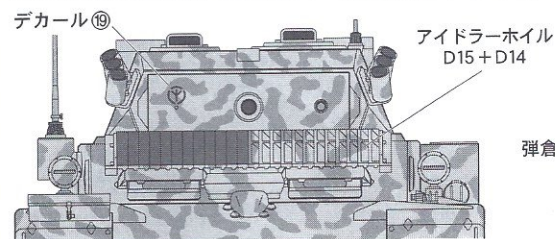
塗装例6 第4装甲偵察大隊 第2中隊 本部付き車輛？ Gruppe Führer?, 2.Kp., Pz.Afkl. Abt.4.

車輪ナンバーの代わりに師団本部を表すペナントのシルエットを砲塔サイドに描いています。スモークディスチャージャーは装備され、戦闘室前面のアイドラーホイール部品は右半分にゴム製、左半分に鋼製のものを取り付けていました。



塗装例7 第4装甲偵察大隊 第2中隊 本部付き車輛？ Gruppe Führer?, 2.Kp., Pz.Afkl. Abt.4.

砲塔サイドにはマーキングが描かれておらず、防盾右側に第4師団の師団マークを描いています。スモークディスチャージャーは装備され、戦闘室前面のアイドラーホイール部品は右半分にゴム製、左半分に鋼製のものを取り付けていました。左のフェンダー前端部は失われています。



■デカールの貼り方

1. 貼りたいデカールを切り取ります。
2. 切り取ったデカールを、水またはぬるま湯に10秒程度浸します。
3. 台紙ごと引き上げ、布やティッシュペーパーなどの上に置いて、余分な水分を吸い取らせます。
4. 台紙の端を持ち、デカールをスライドさせながら所定の位置に貼ります。
5. 位置は、指先に少量の水をつけ、少しづつずらしながら微調整してください。
6. 柔らかい布や綿棒などで押し出すようにしながら、デカール内側に残った気泡や水分を取り除いてください。
7. 貼ったデカールが十分に乾燥するまでは、触らないように注意してください。
8. モールドなど表面の凹凸に馴染みにくい場合は、蒸しタオルや市販のデカール軟化剤などを使用してください。

■戦車兵の組み立てと塗装について

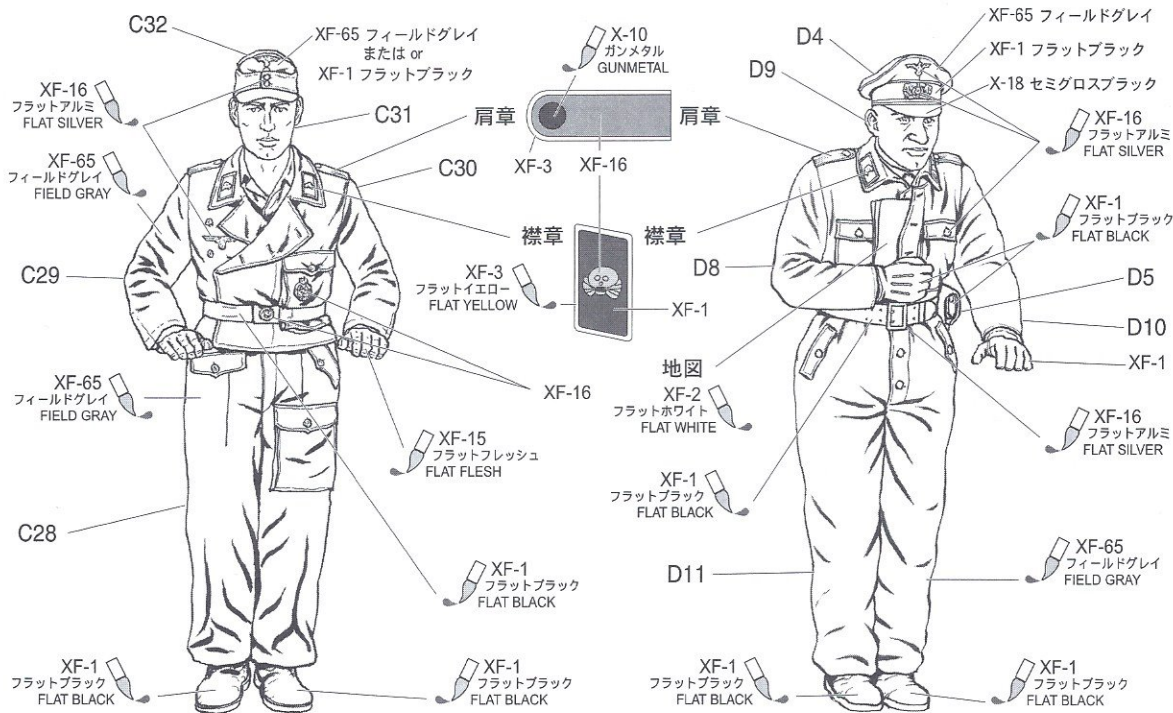
このキットでは2種類の異なる服装の戦車兵を選んで乗せられます。どちらにするか決めて組み立て、塗装をしてください。

ドイツ軍の戦車兵は一般的には黒いウールの上着とズボン、同じウール生地帽子を着用していましたが、大戦後半になると迷彩服や作業服の着用も見られるようになりました。襟章および肩章は兵科色の縁取りがされていました。一般に戦車兵の兵科色はピンクですが、ルクスの配備された装甲偵察大隊はゴールデンイエローでした。

左図の戦車兵はリードグリーンのデニム搭乗服を着用した姿の再現です。ウールの搭乗服と同様ダブルの上着ですが、左のポケットが非

常に大きいのが特徴です。帽子はウールのつば付き略帽で上着と同じ黒のほかにはフィールドグレーのものも使用されました。

右図の戦車兵は、デニムのつなぎを戦闘服の上から着用したスタイルです。開いた襟に地図をはさんでいます。つなぎ服はポケットの有無など縫製にさまざまなバリエーションがあり、徽章類は最初は付いていないのが普通ですが、着用者が後から取り付けることが多かったようです。この将校は野戦将校帽を被り、革の手袋を着用しています。



■カラーナンバー対応表 ※ 近似色です。

タミヤカラー	GSICレオス・Mr.カラー
X-5 グリーン	⑥ グリーン
X-7 レッド	③ レッド
X-10 ガンメタル	②⑧ 黒鉄色
X-18 セミグロスブラック	⑨② セミグロスブラック
X-21 フラットベース	⑩③ フラットベース
XF-1 フラットブラック	⑩③ つや消しブラック
XF-2 フラットホワイト	⑥② つや消しホワイト
XF-3 フラットイエロー	④+⑩③ (イエロー+フラットベース)
XF-15 フラットフレッシュ	⑤① 肌色(フレッシュ)
XF-16 フラットアルミ	⑧+⑩③ (シルバー+フラットベース)
XF-60 ダークイエロー	⑨⑨ ダークイエロー
XF-61 ダークグリーン	⑦⑦ ダークグリーン
XF-63 ジャーマングレー	④⑦ ジャーマングレー
XF-64 レッドブラウン	④① レッドブラウン
XF-65 フィールドグレー	⑤② フィールドグレー(2)

■アフターサービスについて

部品の不足や不良に関しては、無償で正規の部品を送付させていただきます。お手数ですが、お客さまのお名前、ご住所、電話番号、商品名、不足部品の名称(番号)数量、を明記の上、メールまたは電話/FAX、お手紙でご請求ください。また破損、紛失については、実費で部品をお分けいたしております。お手数ですがメールまたは電話/FAXでお客さまのお名前、ご住所、電話番号、商品名、部品名(番号)をお知らせいただければ、弊社から送料を含めた金額および送金方法をお知らせいたします。

有限会社アスカモデル

〒422-8027

静岡県静岡市駿河区豊田3-5-30

TEL:054-203-2100 FAX:054-203-2103

ご協力 (順不同)

by courtesy of The Tank Museum and Saumur Tank Museum.

- ・ボービントン戦車博物館
- ・ソミュール戦車博物館
- ・シカゴレジメンタルス
- ・尾藤 満 氏
- ・金子 辰也 氏
- ・人形原型：高石 誠 氏
- ・イラスト：上田 信 氏
- ・イラスト：モリナガ ヨウ 氏

この他、製品の開発にご協力頂いた方々に心より感謝申し上げます。

組み立てを始める前にお読みください

この説明書は35-006・ルクス増加装甲型の追加説明書です。組み立てに関しては、別紙の35-001・ルクス(後期型)の説明書とあわせてご覧いただく必要があります。あらかじめそれぞれの説明に目を通し、全体の流れを把握してから組み立てに入ってください。

This sheet is an additional instruction for ITEM 35-006. Use with enclosed another instruction (for ITEM 35-001). Read and study both instructions thoroughly before assembly.

- 組み立ての全体的な流れは別紙の35-001用説明書を基本とし、部品の追加や変更のある工程をこちらの説明書に指示してあります。両方の説明書を照らし合わせながら、工程の番号順に組み立ててください。
- このキットは7種類の塗装例が選べますが、それぞれで一部仕様が異なります。最初にこの説明書の2ページから4ページまでを見て、どの塗装例にするか決めてください。
- 組み立てに必要な無い部品が何点かあります。その部品番号を右に示しましたので、間違いの無いように組み立ててください。
- 別紙の35-001用説明書の「組み立てを始める前にお読みください」もお読みください。

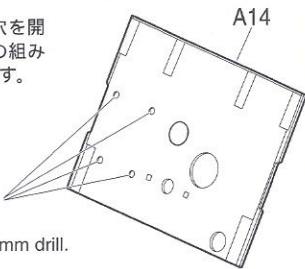
●不要部品

A22, A23
B25, B26, B40, B41, B43, B44
C6, C7, E12, E13
エッチング6

1 車体下部の組み立て

部品A14に4カ所穴を開けます。それ以外の組み立ては別紙の通りです。

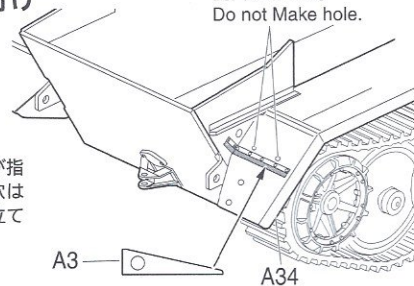
0.5ミリのドリルで開口します。
Make hole with 0.5mm drill.



6 フェンダーの取り付け

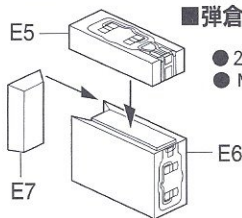
開口しません。
Do not Make hole.

別紙では部品A34への穴開けが指示されていますが、ここでは穴は開けません。それ以外の組み立ては別紙と同じです。



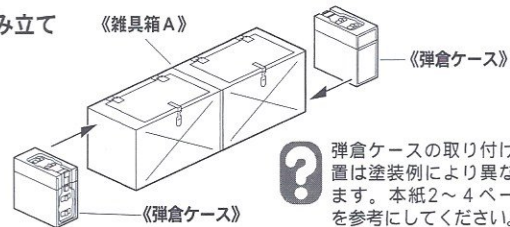
8 雑具箱の組み立て

別紙で指示されている、キヤタピラ工具箱、雑具箱A・B、エンジン点検ハッチは別紙の指示通りに作ります。その後、弾倉ケースを2ヶ作り、雑具箱Aに取り付けます。



■弾倉ケースの組み立て

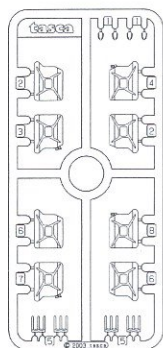
- 2ヶ作ります
- Make 2



? 弾倉ケースの取り付け位置は塗装例により異なります。本紙2~4ページを参考にしてください。

■ジェリカンの組み立て

下図のプラ部品とエッチングパーツを使います。この後の工程で、3ヶのジェリカンを車体に装着します。



エッチングパーツ

取っ手側



外側

■木箱の組み立て

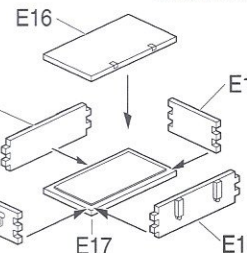
《バケツ》



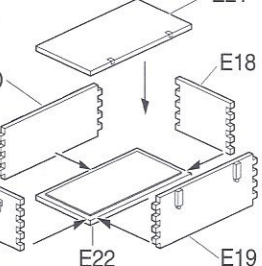
※アクセサリーとしてご自由にお使い下さい。

《木箱・小》

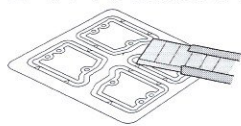
木箱はこの後の工程で車体後部に取り付けます。



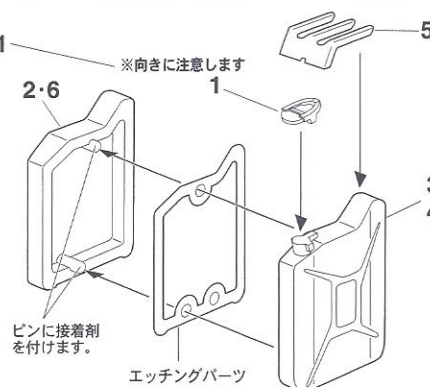
《木箱・大》



■エッチング部品のカット

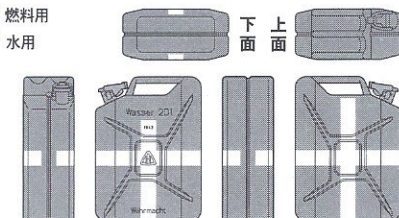


厚めのプラ板等の硬い台の上で、カッターナイフなどを用い慎重にカットして下さい。刃物の取り扱いには、充分にご注意ください。



■ジェリカンの塗装について

このキットには燃料用と水用の2種類のジェリカンがセットされています。塗装は当時のドイツ戦車の基本色であるダークイエローが一般的ですが、水用ジェリカンには燃料用との識別用に白の十字が描かれていました。



11 装備品の取り付け2

D12

D14 《アイドラーホイール・鋼製》

車体色
Hull Collar

D15 《アイドラーホイール・ゴム製》

XF-1
フラットブラック
FLAT BLACK

《ボッシュライト》 B46

B47

B50 《ボッシュライト基部》
左右の向きに注意します。

A24

A21



EX. Tank No.14

アイドラーホイールは部品D14(鋼製)とD15(ゴム製)を合計4ヶ組み合わせて使いますが、塗装例によって組み合わせが異なります。組み合わせと取り付け位置は本紙2~4ページを参考にしてください。図は塗装例2の場合の組み合わせです。

E2

D18

《予備キャタピラ》

図の様に予備キャタピラを装着した車輛もありました。お好みに応じて部品B6、B7、B8を装着してください。塗装は車体色です。

E1

A21 《ボッシュライト》

A29 《消火器》

X-10
ガンメタル
STEEL

XF-64
レッドブラウン
RED BROWN

A24

12 マフラーの組み立て

ジャッキは車体には取り付けません。情景のアクセサリなどにお使いください。消火器は前工程で使用済みです。

13 マフラーの取り付け

消火器は前工程で使用済みですので、この工程では取り付けません。

14 ジャッキの取り付け

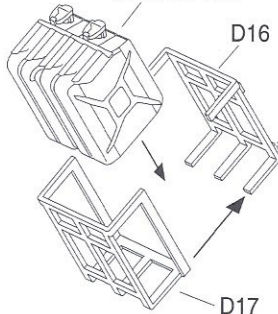
※ジャッキは車体には取り付けません。

《木箱・小》

D3

《ジェリカン×2》

D16



《ジェリカン》

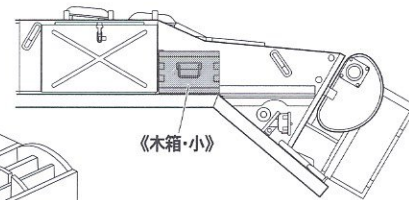
D19

B11

E3

D20

《木箱の取り付け位置》

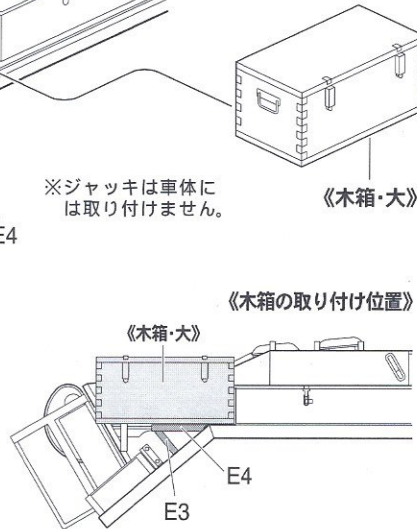


《木箱・小》

※ジャッキは車体には取り付けません。

《木箱・大》

《木箱の取り付け位置》



《木箱・大》

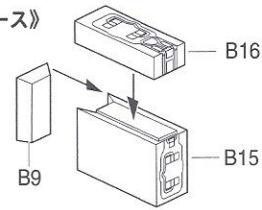
E3

17 ジェリカンの組み立て

ジェリカンとジェリカンラックは使用しないので組み立てません。
2cm砲弾弾倉ケースはこの後の工程で砲塔後部に取り付けますので、2ヶ作ります。

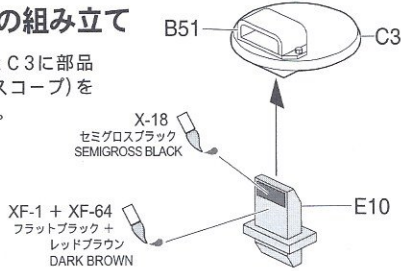
《2cm砲弾弾倉ケース》

- 2ヶ作ります
- Make 2

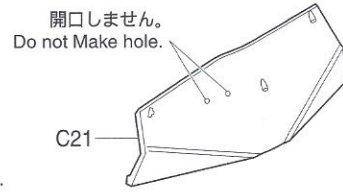
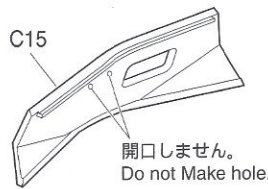


18 砲塔の組み立て

部品B51とC3に部品E10(ペリスコープ)を追加します。

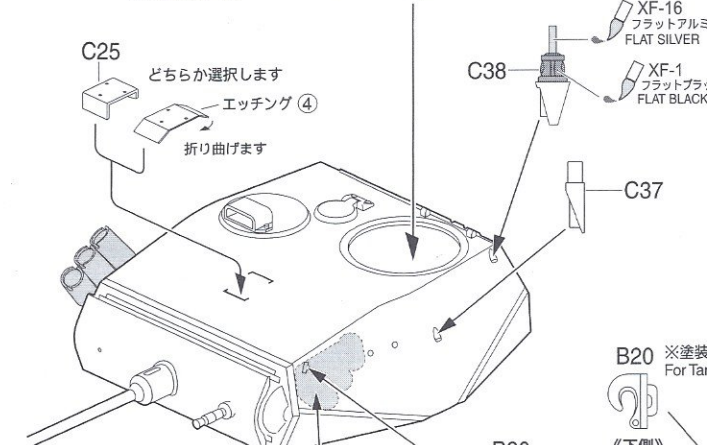
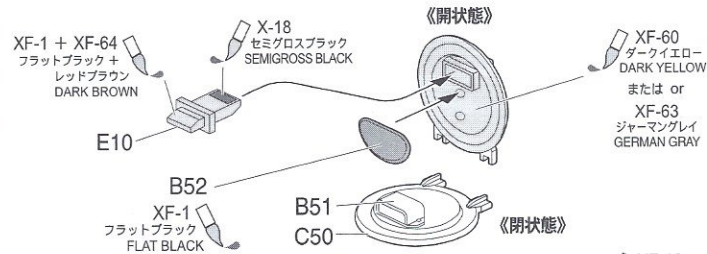


部品C15とC21への穴開けが指示されていますが、ここでは穴を開けません。

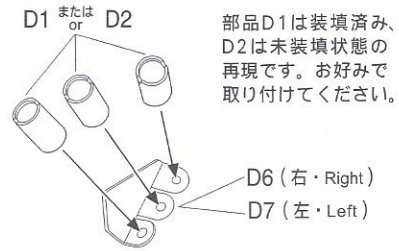


19 ジェリカンの取り付け

※ハッチは開閉が選べます。



■スモークディスチャージャーの組み立て

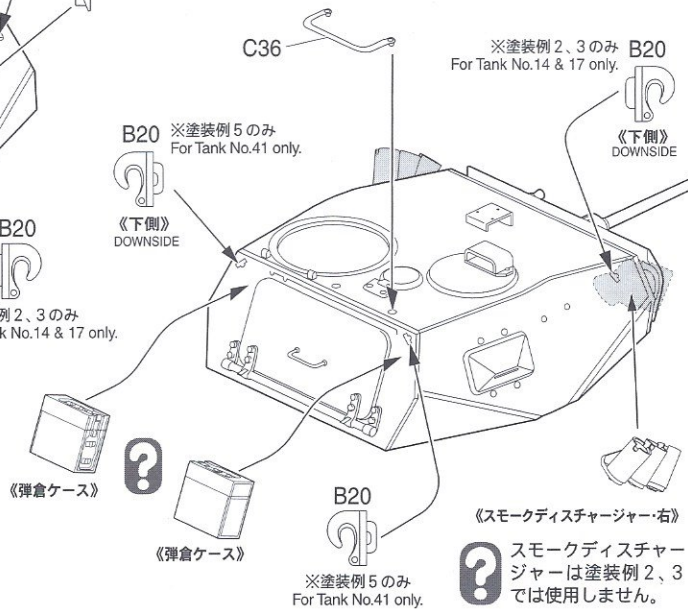


スモークディスチャージャーは塗装例2、3では使用しません。

《スモークディスチャージャー・左》

弾倉ケースの取り付け位置や方向は、塗装例によって異なります。本紙2~4ページを参考にしてください。塗装例5の場合のみ部品B20を使用します。

※塗装例2、3のみ For Tank No.14 & 17 only.



《スモークディスチャージャー・右》

スモークディスチャージャーは塗装例2、3では使用しません。

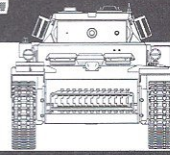
tasca

企画開発
有限会社 タスカ モデルズモ

PRODUCED BY
TASCA MODELLISMO CO.,LTD.
MADE IN JAPAN

有限会社アスカモデル

〒422-8027
静岡県静岡市駿河区豊田3-5-30
TEL:054-203-2100 FAX:054-203-2103



1/35 ドイツII号戦車L型
ルクス (後期型)



MORINAGA .YOH

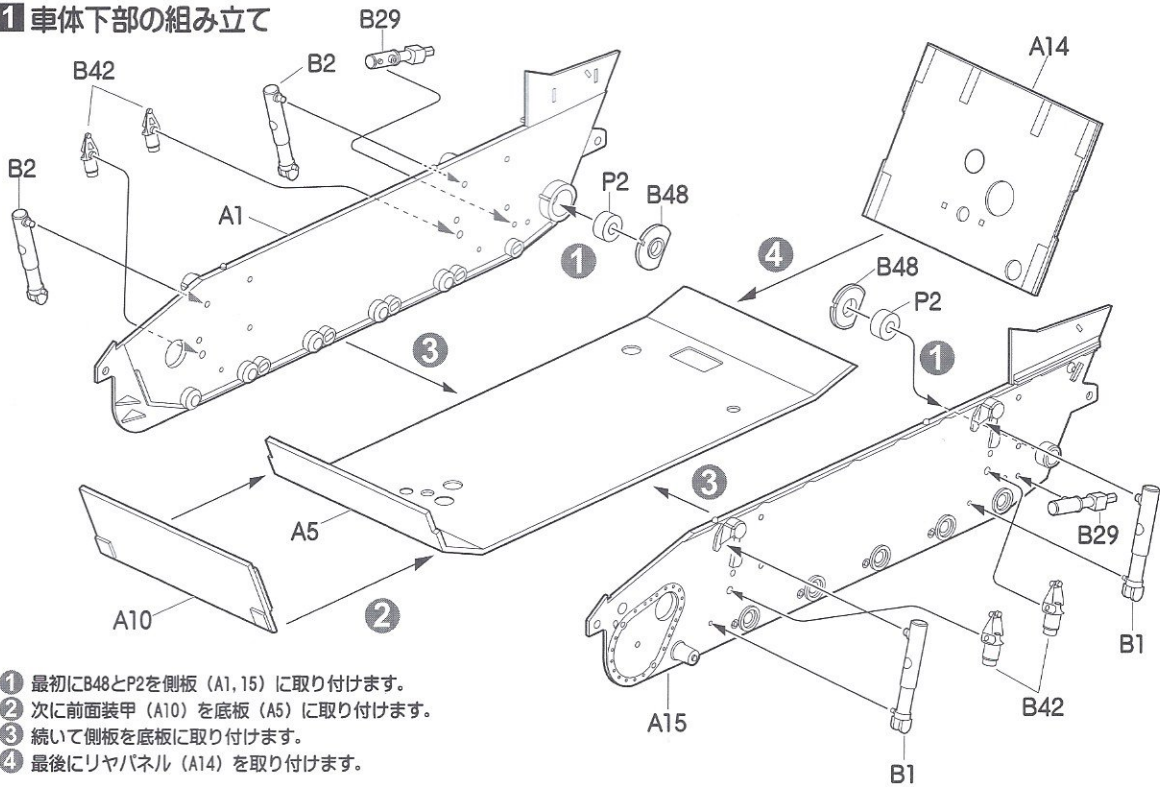
組み立てを始める前にお読みください

- あらかじめ組み立て説明書に目を通し、全体の流れを把握しておきましょう。
- このキットでは3種類の塗装例を選べますが、それぞれで一部仕様が異なります。最初にどの塗装例にするか決めてください。
- ナイフやニッパーなどの刃物の取り扱いには充分注意してください。商品の性格上、先端のつがった部品があります。お取り扱いには充分注意してください。
- 部品とランナーをつなぐゲートは、部品の下側に入り込んでいるものと、横に付いているものがあります。注意してカットしてください。
- 部品は接着剤をつける前に接着位置を確認するなどの仮組みをしてください。特に可動部には接着剤がつかないように注意してください。
- 組み立てにはプラスチックモデル用接着剤をご使用ください。

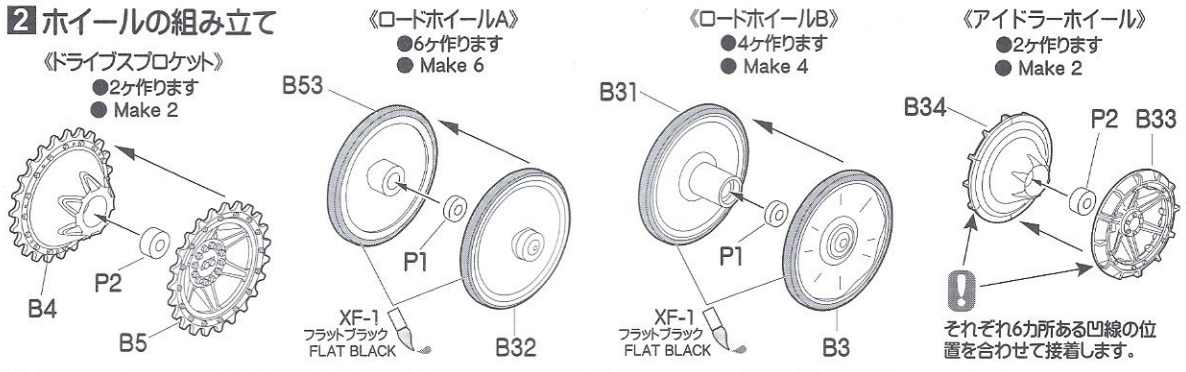
■組み立てには以下の工具が必要です
ニッパー、カッターナイフ、ピンセット、ピンバイス、1ミリと0.5ミリのドリル刃、ヤスリ、耐水ペーパー。接着剤と塗料は別売です。

- Study the instructions thoroughly before assembly.
- When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury.
- Read and follow the instructions supplied with paints and/or cement, if used.
- Use plastic cement and paints only (available separately).
- Use cement sparingly and ventilate room while constructing.
- Keep out of reach of small children.
- Children must not be allowed to suck any part, or pull vinyl bag over the head.

1 車体下部の組み立て

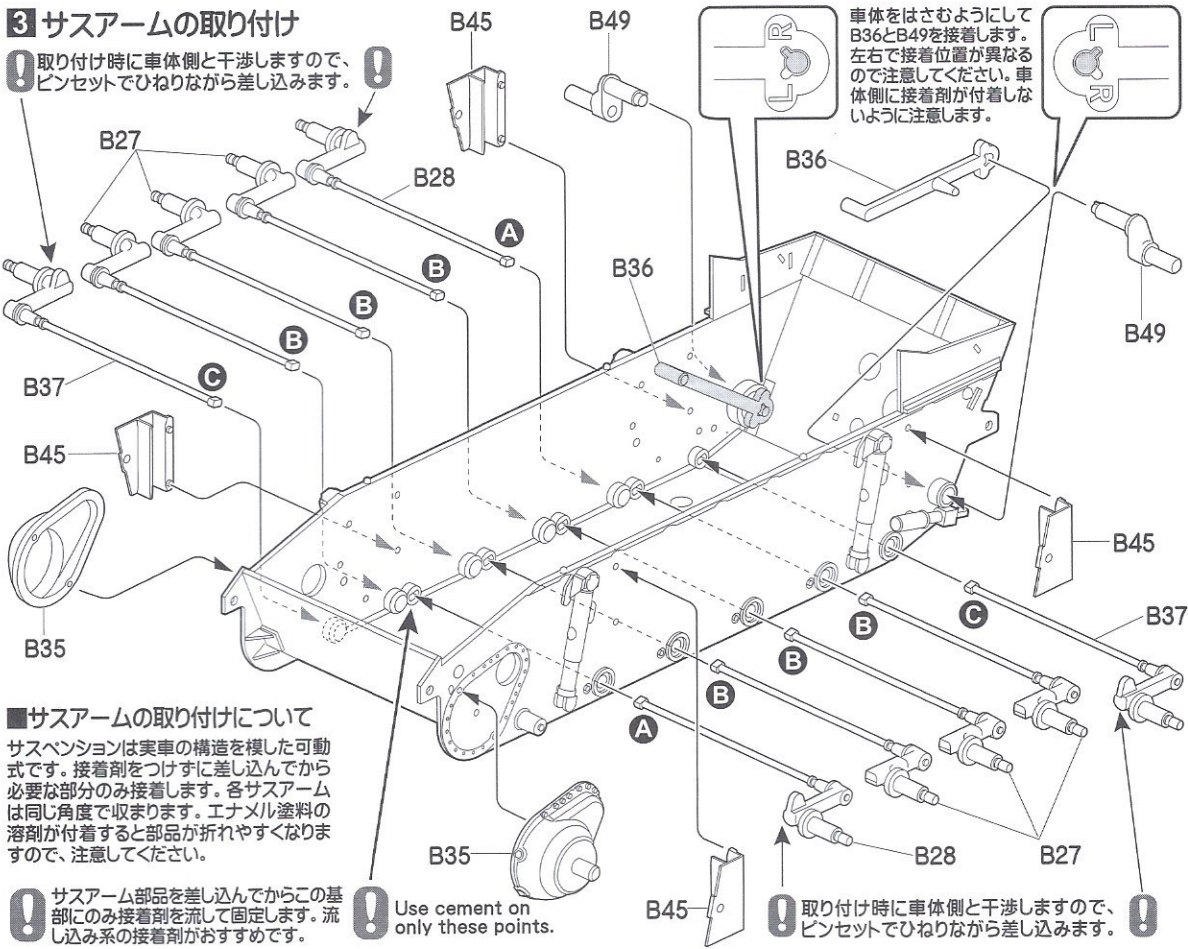


2 ホイールの組み立て



3 サスアームの取り付け

❗ 取り付け時に車体側と干渉しますので、ピンセットでひねりながら差し込みます。

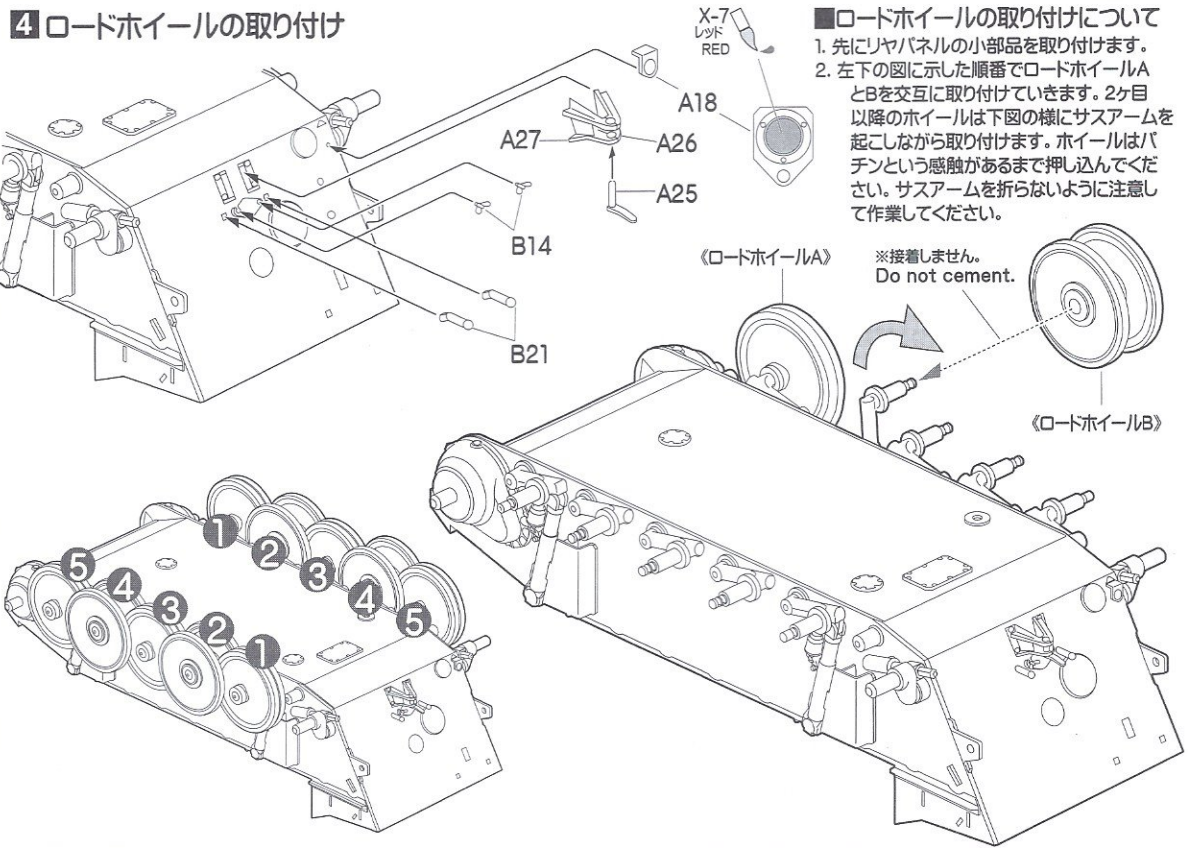


■サスアームの取り付けについて

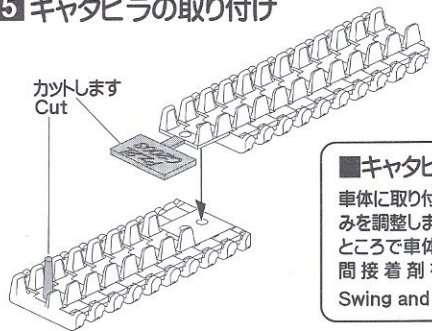
サスペンションは実車の構造を模した可動式です。接着剤をつけずに差し込んでから必要な部分のみ接着します。各サスアームは同じ角度で収まります。エナメル塗料の溶剤が付着すると部品が折れやすくなりますので、注意してください。

❗ サスアーム部品を差し込んでからこの基部のみ接着剤を流して固定します。流し込み系の接着剤がおすすです。

4 ロードホイールの取り付け



5 キャタピラの取り付け



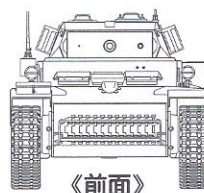
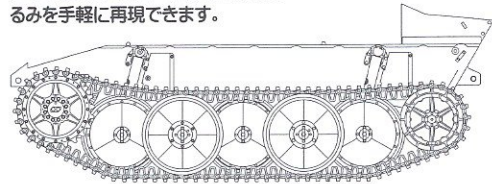
■キャタピラの調整について

車体に取り付けた後、このアームでたるみを調整します。適度なたるみになったところで車体内側から軸受け部分に瞬間接着剤を流して固定します。
Swing and fix with using CA

■接着と塗装について

キャタピラはプラモデル用の塗料と接着剤で接着・塗装ができます。錆びた鉄や泥汚れの表現をするとよりリアルに仕上がります。また、この工程で車体下部や転輪などの基本的な塗装も済ませておきます。

転輪の上部に接着剤をつけてキャタピラを固定すると、キャタピラのたるみを手軽に再現できます。

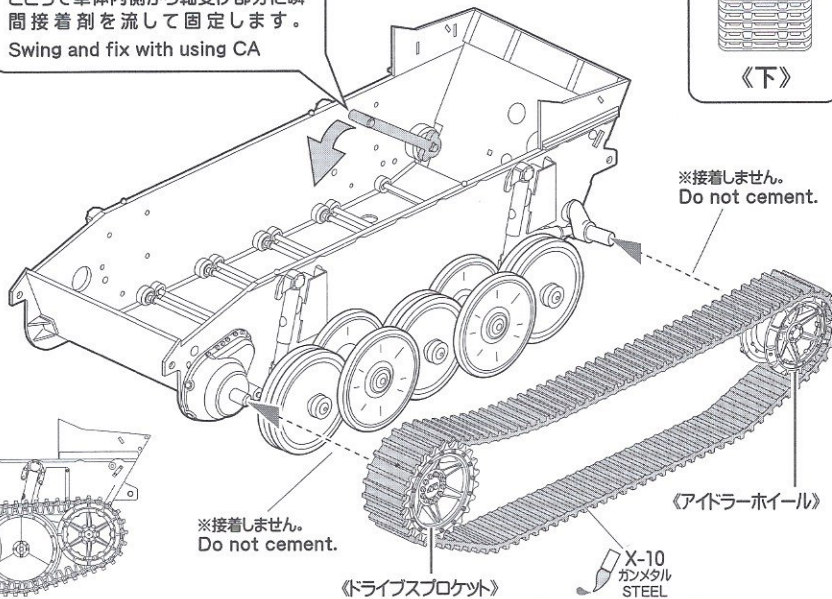


！キャタピラの向きに注意します。

《上》



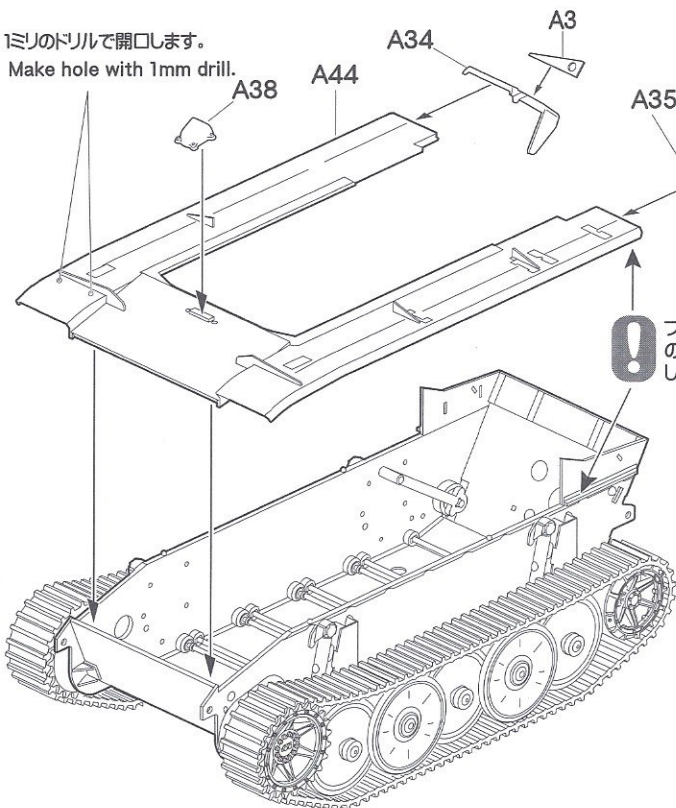
《下》



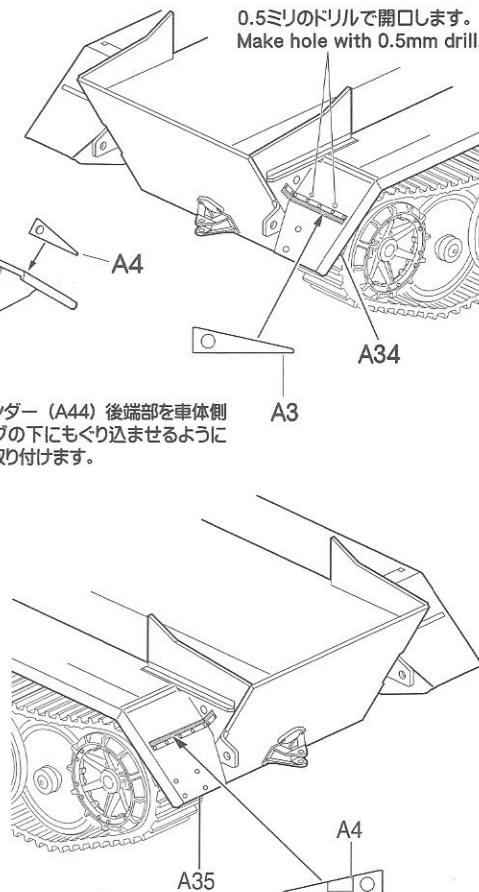
6 フェンダーの取り付け

！A3とA4を間違えないよう注意してください。

1ミリのドリルで開口します。
Make hole with 1mm drill.

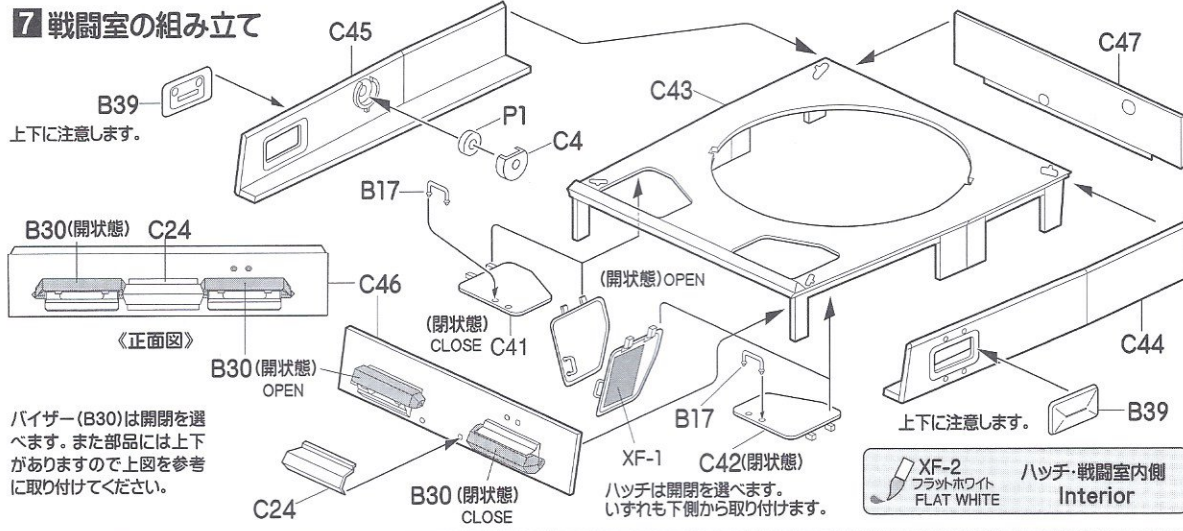


0.5ミリのドリルで開口します。
Make hole with 0.5mm drill.

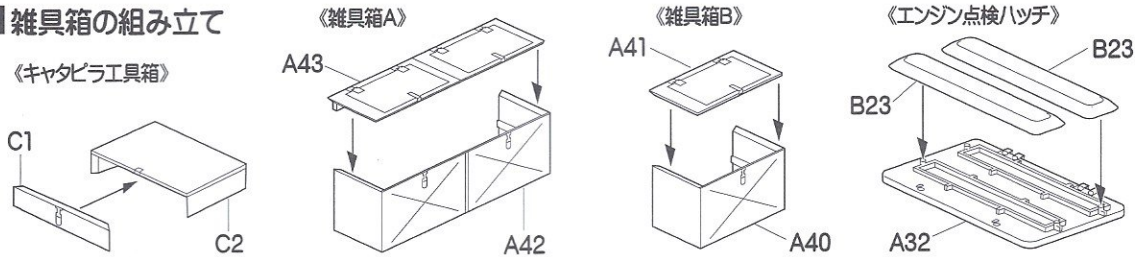


！フェンダー (A44) 後端部を車体側のリップの下にもぐり込ませるようにして取り付けます。

7 戦闘室の組み立て

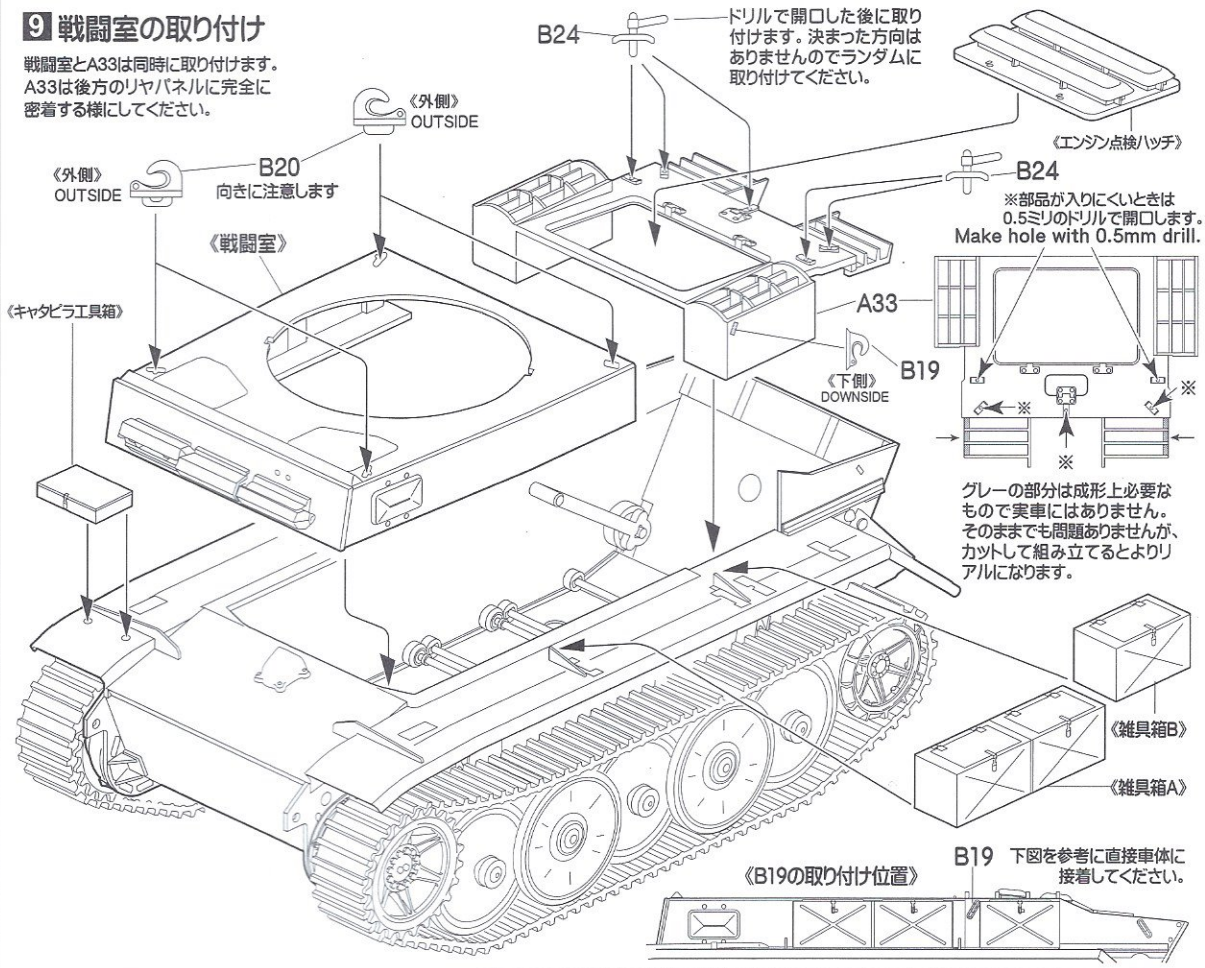


8 雑具箱の組み立て

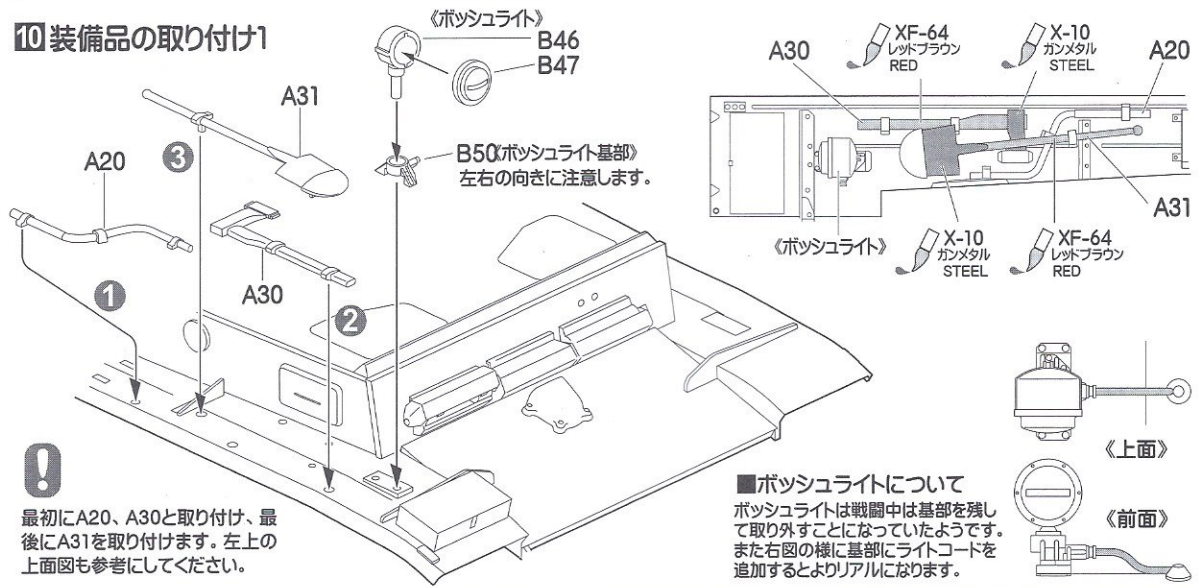


9 戦闘室の取り付け

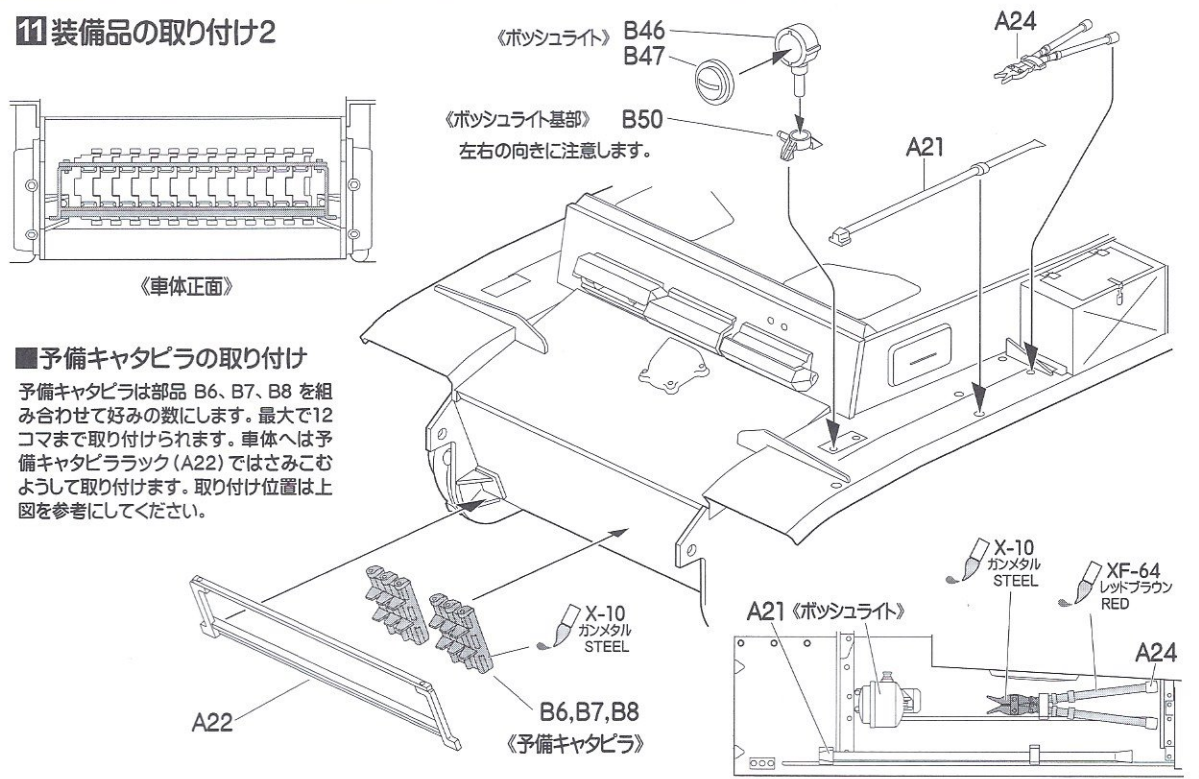
戦闘室とA33は同時に取り付けます。
A33は後方のリアパネルに完全に
密着する様にしてください。



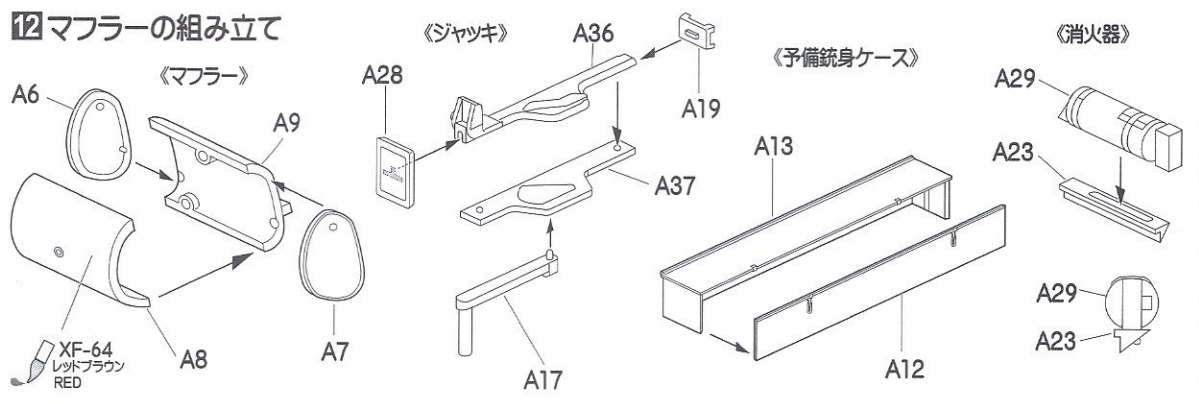
10 装備品の取り付け



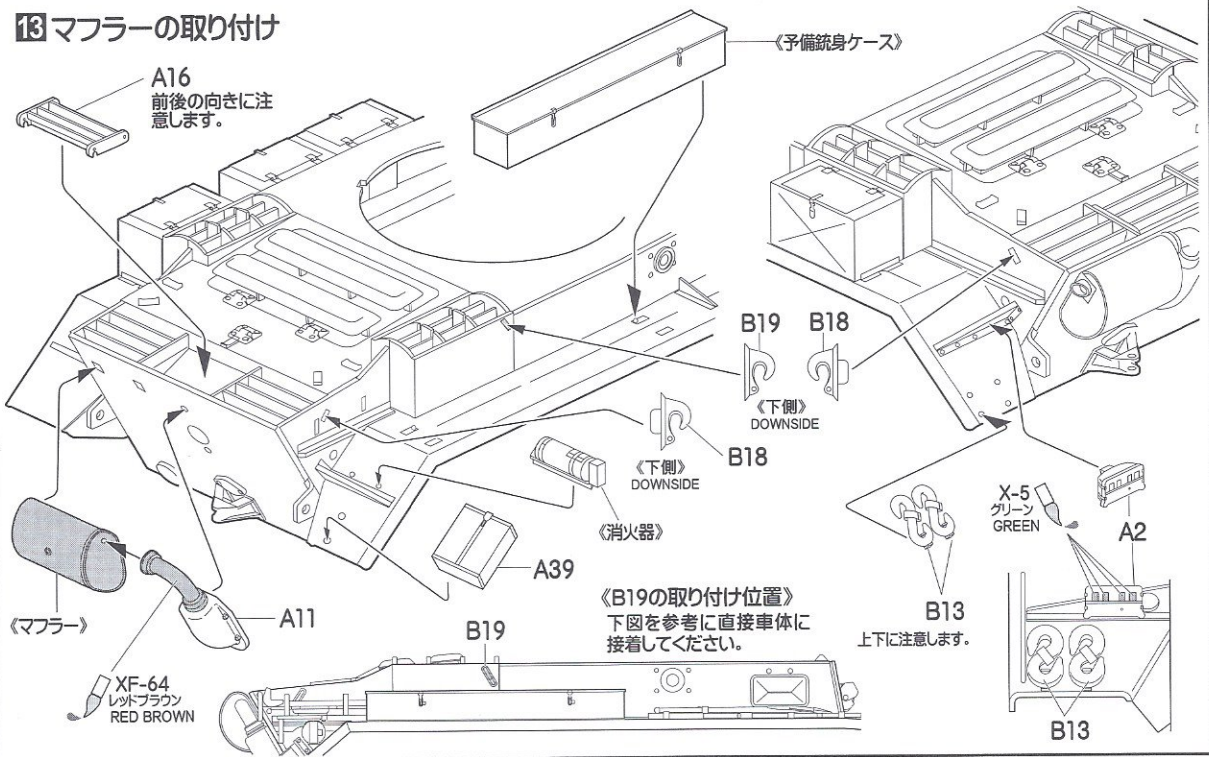
11 装備品の取り付け2



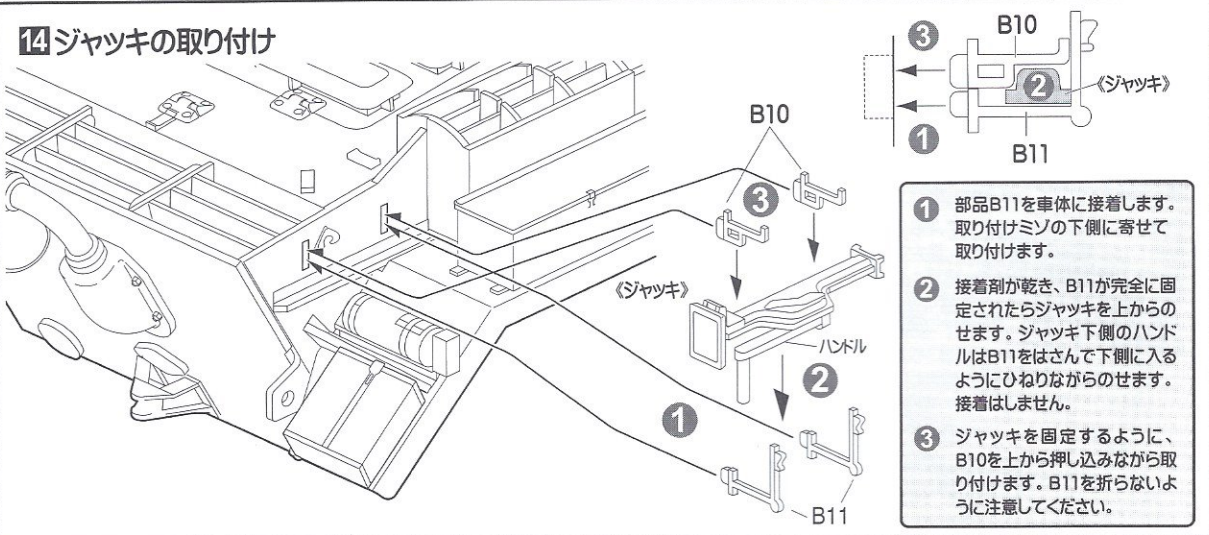
12 マフラーの組み立て



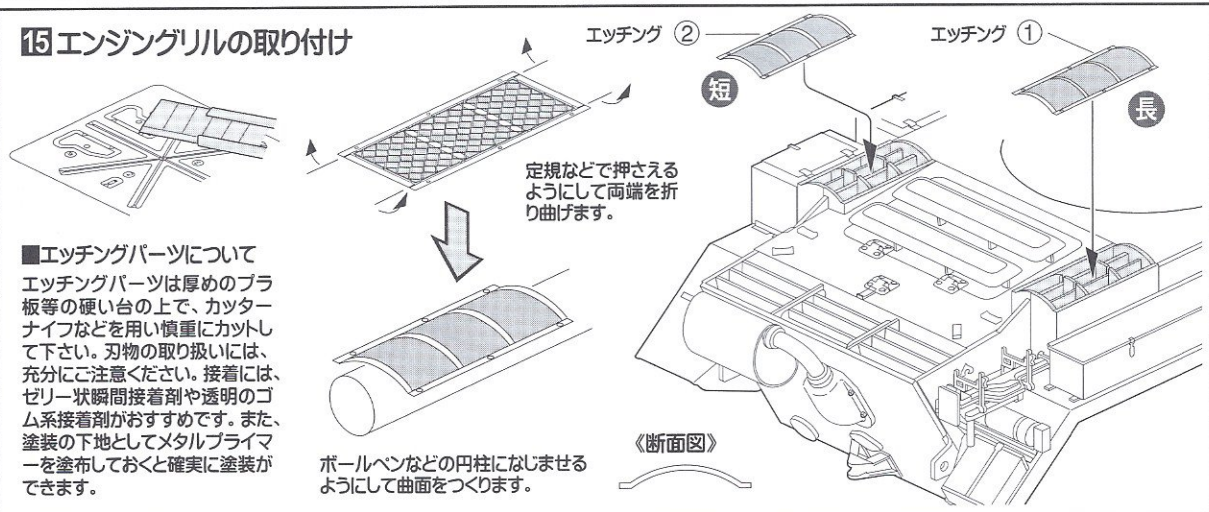
13 マフラーの取り付け



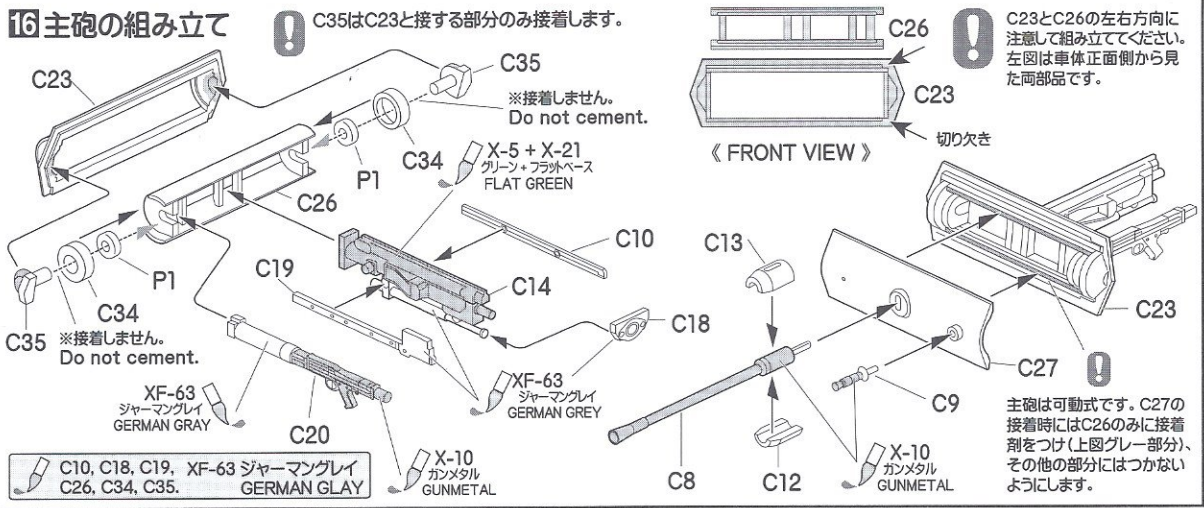
14 ジャッキの取り付け



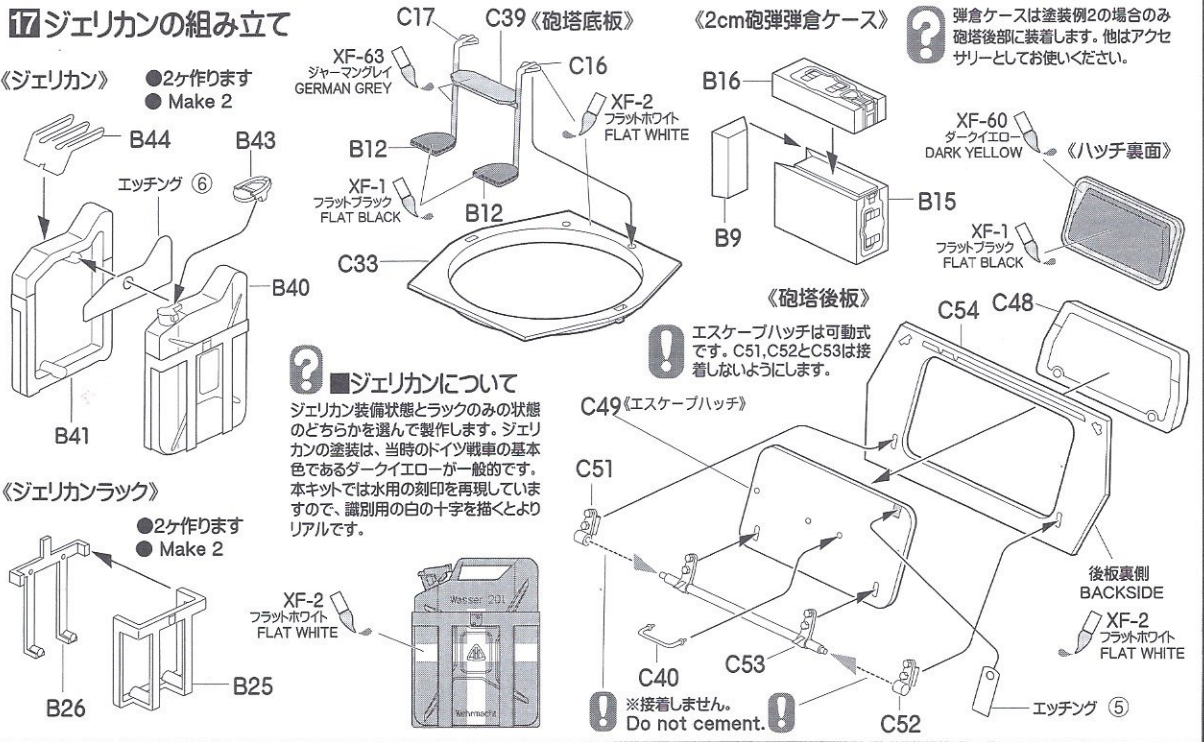
15 エンジングリルの取り付け



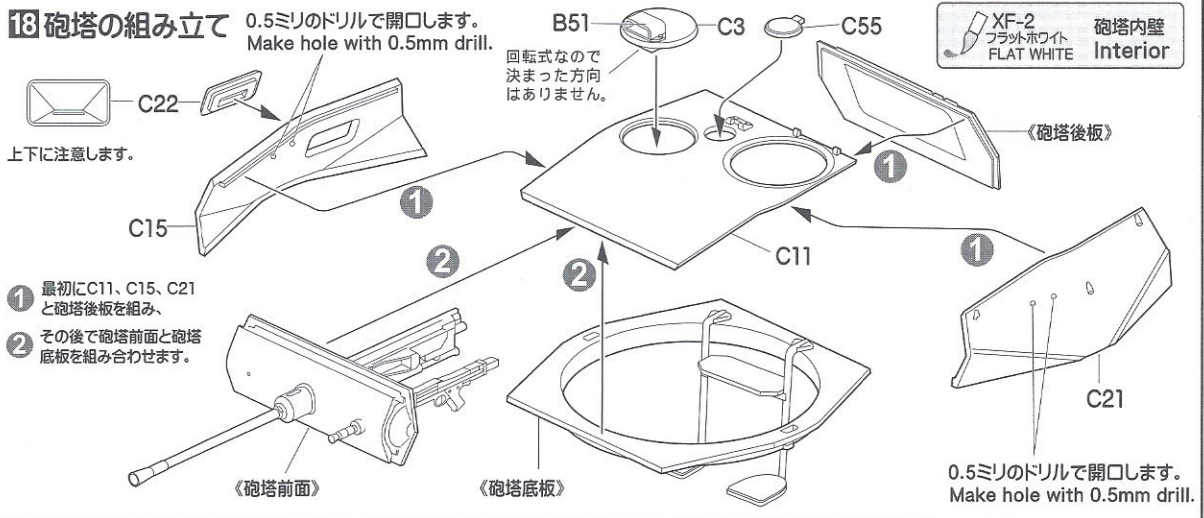
16 主砲の組み立て



17 ジェリカンの組み立て



18 砲塔の組み立て

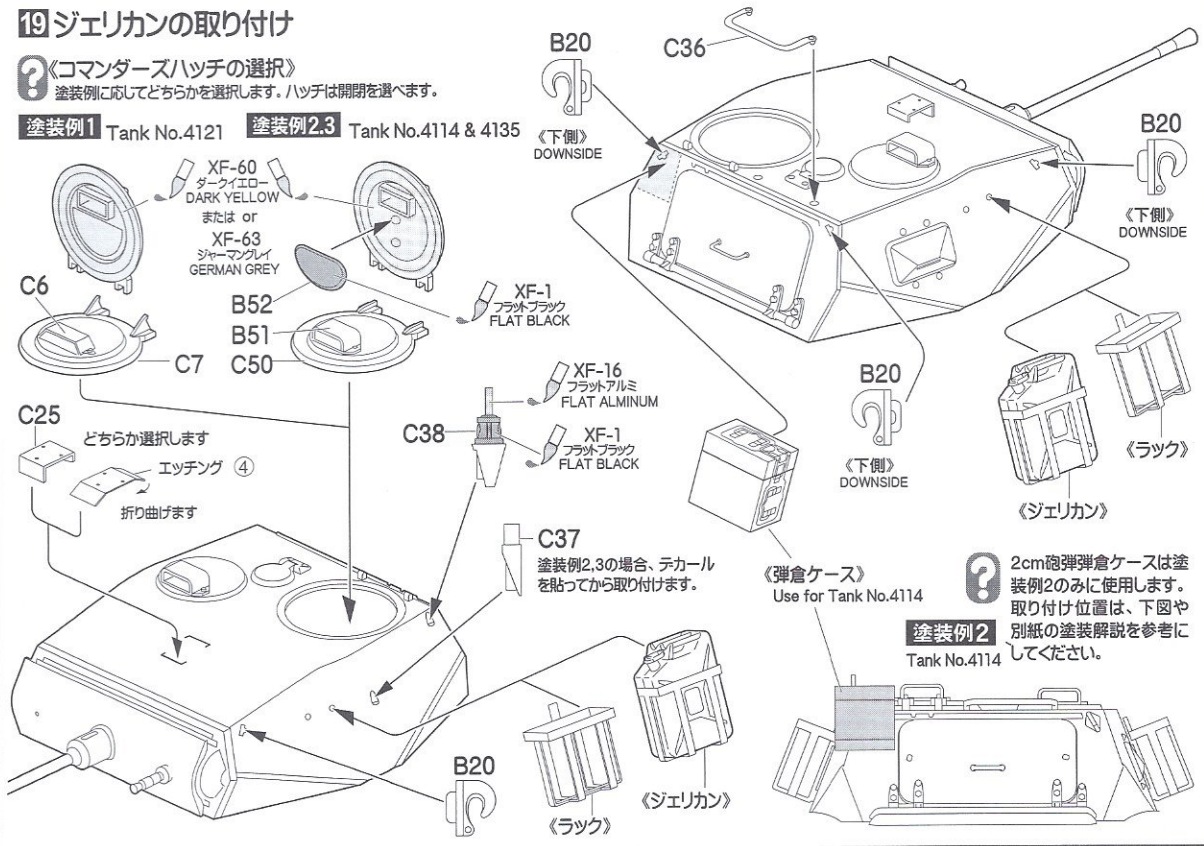


19 ジェリカンの取り付け

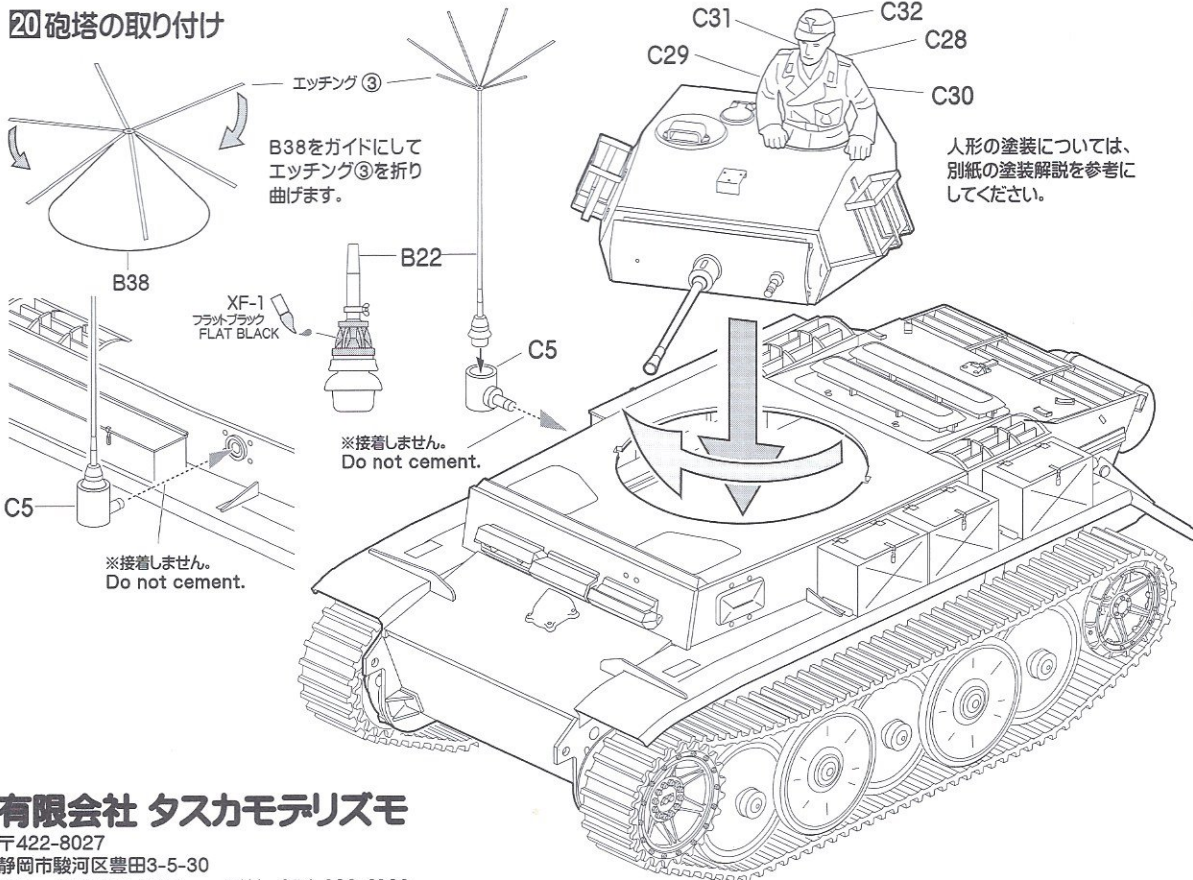
《コマンドーズハッチの選択》

塗装例に応じてどちらかを選択します。ハッチは開閉を選べます。

塗装例1 Tank No.4121 塗装例2.3 Tank No.4114 & 4135



20 砲塔の取り付け



有限会社 タスカモデリズム

〒422-8027

静岡県駿河区豊田3-5-30

TEL 054-203-2100 FAX 054-203-2103

http://www.tasca-modellismo.com

E-mail info@tasca-modellismo.com

© 2003 tasca MADE IN JAPAN

07年第2版